

令和六年度 お茶の水女子大学 文教育学部 第三年次編入学試験問題
言語文化学科（日本語・日本文学プログラム）

※解答はすべて答案用紙に記入すること。
次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

ポストコロニアル批評は、パレスチナ出身の米国の批評家エドワード・サイードの一九七八年の著作『オリエンタリズム』に端を発した思想潮流である。サイードは本書で、近代西洋がオリエンタリズム（中東）を「没落に瀕した過去の文明」として表象し、その軍事的政治的植民地支配を正当化してきた歴史について論じた。その後、ガヤトリ・スピヴァクなど、旧植民地出身の先進国の知識人によって、ジェンダーをめぐる問題系とも交差しつつ様々な議論が行われている。その出発点には、知の権力を握る側とそれに従属させられている側の関係性を問い直し、その公正な形をめざす倫理的姿勢がある。旧植民地の大半が政治的独立を果たした二〇世紀後半以降も、旧宗主国による知の覇権による言説支配の構造は続いており、現在の地球規模の南北格差や移民・難民の排除をめぐる諸問題と直結している。それ故、ポストコロニアル批評は、すでに解決済みの過去を対象としているのではなく、二一世紀初頭の現実に根差した、アクチュアルな問題を提示し続けていると言える。

日本でもポストコロニアル批評は一九九〇年代以降、人文学の分野で重要なキーワード概念の一つとして受け入れられた。たとえば柄谷行人は一九八〇年代半ばのごく早い時点で、近代初頭において生じた、日本の中国に対する眼差しの変化を、近代西洋の中東に対する眼差しの変化に擬え、「日本こそオリエンタリズムを再生産している、という視点」の必要性を強調している。前近代日本の場合、注意すべきことは、日本が中国に対しては周縁でありながら、同時に中華帝国を模して小帝国を形成し、その周縁とみなす地域を表象的に領有化していたことである。そのような心象地理の延長上で、一九世紀後半以降、近代日本は近代西洋が形成した世界秩序に追隨する優等生を自認すると同時に、（かつて模倣対象であった中国を含む）更なる周縁とみなした地域にオリエンタリズム的視線を向けることになる。

ポストコロニアル批評は、知の権力における支配者側と被支配者側がそれぞれに抱え込んでいる負の精神的遺産を問題化する。『オリエンタリズム』が問題化したのは前者（それは後者の苦しみを分有するサイドであればこそ可能であった）だが、旧植民地地域においては、むしろ後者——被支配者側が支配者側の言説的枠組みに適応せざるを得なかったことがもたらした負の遺産との対峙——の方が重視されやすいかもれない。しかし近代日本においては、この両者が相乗効果となって堅牢な無意識を構成するまでになっている点こそが問題であるように思われる。この無意識のレヴェルにまで内面化された二重にコロニアルな状況を分析し、オルタナティブなあり方を掘り起こすことが、日本においてポストコロニアル批評が果たすべき役割であろう。そしてその際の重要な論点の一つが、この二重構造は前近代における、東アジア漢文文化圏周縁の小帝国というあり方を受け継いだものであるという認識なのである。

『平家物語』は一二世紀末に成立し、一九世紀半ばまで継続された、天皇／将軍、朝廷

／幕府の⁽¹⁾公武二重体制の起源神話として、単なる物語以上に重要な歴史的・政治的役割を果たしてきた。そこには、以上の二重のコロニアルな状態を考え直すための豊富な論点がちりばめられている。本書では覚一本『平家物語』におけるポストコロニアルな論点を示す記述群の中から、それぞれに異なる意義を持つ四つの記述を選択し、具体的な分析を加えることにしたい。

(中略)

『平家物語』の語りが強固な「平安京中心史観」に規定されていることは、巻三の俊寛説話における差別的な鬼界が島の表象に典型的に表れている。たとえば、師の俊寛を訪ねて鬼界が島にやってきた有王は、人々の言葉がききとれず、餓鬼のような姿をしている師に遭遇し、それが俊寛であることを認識できず、自分が餓鬼道に堕ちたのではないかと錯覚する。鬼界が島とそこで暮らす俊寛の境遇を悲惨なものとして描き出すことが、物語の構想上必要な事柄として要請されたのであり、そこに物語作者の差別意識が横たわっていることは否定できない。

問題はそのような記述を現代の我々がどのように読むかということである。文学研究の対象である言葉(言説)の意味作用はその背景をなす社会的文脈と関係にある。言説はそれが成立した文化圏内部においては、その内的ルールに基づいて一義的に受け取られる傾向があるが、その外側においてはそうではない。『平家物語』は日本列島や隣接するアジアの諸地域について、主に平安京(王朝)の視点から記述しており、そこには「差別」が存在する。また、王朝文化は中世以降、貴族以外の諸階層に対し、自文化に対する同化・服従を促してきた。そして近代「国文学」においてはそれが帝国臣民の備えるべき教養とされたのである。「国文学」に期待された役割は、文学研究ではなく、臣民教育の装置として機能することだったものと思われる。

戦後、国文学研究にも民衆的視点が導入される。しかし、⁽³⁾言葉と意味の基本的一致を前提とする近代的な文学観の下では、上述の同化主義的傾向を抑止することはできない。それが可能になるためには、一つのテキストから多様な意味を引き出しうること、その中で意味の構想の諸相を追究することが、文学研究の意義の一つであるという学問観の転換が必要である。そうしてはじめて前近代の文学研究は「古典」に対する従順で権威主義的な姿勢から脱却し、「古典」解釈が孕む政治性について認識を深めることができるであろう。我々は物語の枠組が求める、都びとへの感情移入の要請に逆らってテキストを読む必要があるのである。

『平家物語』の平安京中心主義は至る所に露呈している。たとえば巻五には、清盛の強引な福原遷都の記述(「都遷」)に続いて「月見」「物怪之沙汰」という二つの章段が配置されている。「月見」は、遷都後の中秋の名月の日に、平氏政権下で不遇をかこつ貴族の徳大寺実定が、かつて二代の帝王に入内した経験を持つ姉の多子を近衛河原の御所に訪ねる挿話である。二人の再会の場面は「源氏の宇治の巻には、うばそくの宮の御娘、秋のなごりを惜しみ、琵琶をしらべて夜もすがら、心をすまし給ひしに、在明の月いでけるを、⁽⁴⁾猶たへずやおぼしけん、撥にてまねき給ひけんも、いまこそ思ひ知られけれ」と、『源氏物語』宇治十帖における、薫と宇治の姫君の出会いの場面が引き合いに出されている。この場面は、平安京が政治の中心から外され、廢墟となってしまう様子を描いているのだが、『源氏物語』の引用により、⁽⁵⁾

他方「物怪之沙汰」は、「福原へ都をうつされて後、平家の人々は夢見もあしう、常は

心さはぎのみして、変化の物どもおほかりけり」と、福原に移った人々の落ち着かない様子から始まり、清盛の前に怪異が連続して生じるさまが描かれ、情趣深い「月見」とはまさに対照的な配置になっている。読者は平安京中心主義の感情教育に巻き込まれるような仕組みになっているのである。

(中略)

『平家物語』とコロニアリズムに関する第三の論点として、平氏の没落の描かれ方に関する問題系がある。治承寿永の内乱を経て、源頼朝の下で秩序が回復された。しかし、都落ちした平家一門は後白河院以下に見放され、運命の転変を身をもって経験しなければならなかった。東国の武士団は、内乱以前は平家に臣従する立場であり、畿内の源氏に比べても劣位の存在であった。しかし戦争はその関係性を逆転させる。

生田合戦で源氏方として平知盛に対峙した武蔵児玉党の武士団は、かつて武蔵守であった平知盛とは主従関係にあり、(知盛の側では知らなくても)児玉党の側では知盛のことはよく知っていた。『平家物語』巻九「越中前司最期」では、その児玉党が、かつての主筋にあたる知盛に、その敗北を知らしめる役割を演じている。知盛と児玉党の関わりは、この後「知章最期」で再び叙述される。ここで知盛にとって痛恨の出来事が起きる。知盛はかつての部下である児玉党に追いつめられ、側近の監物太郎と愛息の武蔵守知章を身代わりにして、無我夢中で逃げ延びたのであった。我に戻った知盛は宗盛の前で懺悔する。

「武蔵守におくれ候ひぬ。監物太郎うたせ候ひぬ。今は心ぼそうこそまかりなッて候へ。いかなれば子はあッて、親をたすけん(6)と敵に組むを見ながら、いかなる親なれば、子のうたるるをたすけずして、かやうにのがれ参ッて候ふらんと、人の上で候はばいかばかりもどかしう存じ候ふべきに、我身の上になりぬれば、よう命は惜しい物で候ひけりと、今こそ思ひ知られて候へ。人々の思はれん心のうちどもこそ恥づかしう候へ」。誇り高き武将として自他ともに許す存在であった知盛は、往年の部下に背かれ、現在の部下と愛息を裏切るという二重の「意味の裂け目」を身をもって経験するのである。

巻十一「内侍所都入」で知盛が最期に述懐する「見るべき程の事は見つ。いまは自害せん」という有名な言葉は、この「知章最期」の記述を踏まえて考える必要がある。この言葉は彼の運命を凝視する覚悟の言葉として、石母田正以来、高く評価されている。しかし、それは知盛が新たな悲劇を避け得たことを意味しない。同巻「先帝身投」で彼は自らの自害に先立ち、御座舟に参向し、「世のなかは今ばかりと見えて候。見苦しからん物共、みな海へいれさせ給へ」と自ら掃除を始める。そして、女房達に戦況をきかれ、「めづらしきあづま男をこそ御覧せられ候はんずらめ」と言ってからからと笑う。知盛は彼女らを恐怖に叩き込み、その集団入水への道を用意してしまうのだ。

これは生田合戦での未練な行動を反復すまいとの決心から出た振舞いであったように読める。しかし、総大将として源氏方と粘り強く交渉し、女房や先帝の命を救う道を探るべき責任を放棄する行為であろう。そしてその責任放棄の後押しをしたのが、敵を「めづらしきあづま男」と表現し、自ら対話の道を閉ざす平家方の差別的な東国観であった。そのことは幼帝安徳を無理心中の道連れにした時子にも言えることであろう。壇の浦で入水しなかったとしても、安徳は結局は源氏方によって毒殺される運命であったかもしれない。しかしやはり時子は安徳を救うべく努力すべきだったのではないだろうか。「浪の下にも都のさぶらふぞ」という時子の最後の言葉は、彼女を捉えていた妄念の強さを語って余りある。⁽⁷⁾『平家物語』は知盛や時子の覚悟の自殺が平安京中心主義への固着の結果であり、

それが安徳の命を奪う結果を招いたことを端なくも示しているのである。

(樋口大祐『平家物語』とポストコロニアル批評)に拠り、出題のため一部省略・改変した。)

注 ○柄谷行人——日本の哲学者・文芸評論家。

○コロニアル——「植民地的な」という意味の語。

○鬼界が島——俊寛が流された南海の孤島。

○石母田正——歴史学者。『平家物語』についての著名な評論がある。

○「浪の下にも都のさぶらふぞ」——時子が安徳を抱いて入水するときに安徳に掛けた言葉。

問一 傍線(1)「公武二重体制の起源神話として、単なる物語以上に重要な歴史的政治的役割を果たしてきた」とはどういうことか、わかりやすく説明せよ。

問二 傍線(2)「餓鬼道」は「六道」の一つであるが、他にはどんな「道」があるか、漢字で三つ記せ。

問三 傍線(3)「言葉と意味の基本的一致を前提とする近代的な文学観の下では、上述の同化主義的な傾向を抑止することはできない」のはなぜか、著者の考えに沿って説明せよ。

問四 傍線(4)「猶たへずやおぼしけん、撥にてまねき給ひけんも、いまこそ思ひ知られけれ」を適切に言葉を補いながら現代語訳せよ。

問五 空欄(5)にはどのような記述が入るべきか。前後の文脈から自分で考えて書け。

問六 傍線(6)「いかなる親なれば、子のうたるるをたすけずして、かやうにのがれ参ッて候ふらんと、人の上で候はばいかばかりもどかしう存じ候ふべきに」を現代語訳せよ。

問七 傍線(7)『平家物語』は知盛や時子の覚悟の自殺が平安京中心主義への固着の結果であり、それが安徳の命を奪う結果を招いたことを端なくも示している」では、作品がある事柄を「端なくも」示すという言い方をしている。作品が読者に伝えようとしている事柄ではなく、いわば無意識に示してしまっているようなことを読み取るうとする研究について、問題文の中ではどういう態度だと言っているか。適切な部分を抜き出して示せ。

(問題以上。解答はすべて答案用紙に記入のこと。)

令和6年度 お茶の水女子大学 文教育学部 第3年次編入学試験問題
言語文化学科（中国語圏言語文化コース）

I 次の事項について簡単に説明せよ。

問1. 諸子百家

問2. 近体詩

問3. 『漢書』

問4. 志怪と伝奇

II 次の文章を日本語に訳せ。

問1. 苛政猛於虎也。（『礼記』より）

問2. 勞心者治人、勞力者治於人。（『孟子』より）

問3. 不患人之不己知、患不知人也。（『論語』より）

問4. 先即制人、後則為人所制。（『史記』より）

Ⅲ 次の文章を読んで、以下の問いに答えよ。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承ください。

ホームページ <http://www.zkdj.gov.cn/xuexi/chuantong/20191009/9766.html>

《“东西”词源的一个可能》より改変

問1. 下線部 (a) ~ (e) の漢字をピンインに直しなさい。

問2. 下線部 (1) ~ (3) を日本語に訳せ。

問3. この文章では“东西”の語源について、仮説が提示されているが、それはどのような仮説か。論拠とともに説明せよ。

令和6年度 お茶の水女子大学 文教育学部 第3年次編入学試験問題
言語文化学科(英語圏言語文化プログラム)

- 1 次の英文を読み、設問に答えなさい。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承ください。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承ください。

(Adapted from Micael Dahlen and Helge Thorbjørnsen,
“How Numbers Can Ruin Your Life”, *Time*, 2023)

設問 1. 下線部(1)を和訳しなさい。

設問 2. 下線部(2)を和訳しなさい。

2 次の英文を読み、設問に答えなさい。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承ください。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

(Adapted from Michael Sandel, *The Tyranny of Merit:
What's Become of the Common Good?*, 2021)

設問 1. 下線部 (1) はどういうことか、本文に即して日本語で説明しなさい。

設問 2. 下線部 (2) の代名詞は何を指しているか、以下の (ア) ~ (エ) から選び、解答欄に記号で書きなさい。

(ア) an aristocracy

(イ) a meritocracy

(ウ) a person's condition

(エ) a person's talent

設問 3. ㊸[]の中の語句を最も適切な順序に並べ替えて解答欄に書きなさい。

設問 4. 下線部 (3) についてなぜそのように言えるか、本文に即して日本語で説明しなさい。

設問 5. 下線部 (4) を和訳しなさい。

設問 6. 以下の (a) ~ (d) の文について、本文の内容に合致するものには○を、合致しないものには×を、それぞれ解答欄に書きなさい。

(a) A meritocratic society is a more equal society than an aristocratic one.

(b) An aristocratic society allows people to rise based on their talents.

(c) In a meritocratic society, rich people feel pride in their position because they have earned it.

(d) Poor people feel resentment more in an aristocratic society than in a meritocratic one.

3 次の質問に英語で答えなさい。

What is the relationship between the development of technology and the development of art?

令和6年度 お茶の水女子大学 文教育学部 第3年次編入学試験問題
言語文化学科(仏語圏言語文化プログラム)

次の I (A)、I (B)、II、各問につき一枚の答案用紙を用いて答えなさい。
(答案用紙の最初に I (A) というように記すこと。)

I. 次の各文を日本語に訳しなさい。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

(D'après J.M.G. Le Clézio, *Printemps et autres saisons*)

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

(D'après « Vu du Royaume-Uni. Qu'est-ce que cela signifie d'être français ? »,
Courrier international, le 31 mars 2022)

II. 次の文章をフランス語に訳しなさい。

日本と同じように、フランスでも犬や猫を飼っている家庭は多い。フランス人は猫が好きだと言われることがあるが、町中では猫よりも犬を見かけることが圧倒的に多い。フランスの犬は人間にとっても従順であり、公共の場ではおとなしくしている。例えば、パリでは大きな犬が飼い主と一緒にバスや地下鉄に乗ることがよくあるが、そのためにトラブルが起きることはめったにない。

令和6年度

お茶の水女子大学

文教育学部

第3年次編入学試験問題

人間社会科学科(社会学プログラム)

2023年9月30日(土)

10:00～11:30

問1, 問2の解答は, それぞれ別の答案用紙に, 問題番号を明記して記入すること.

「はじめ」の合図があるまでは中を見てはいけない。

問1. 以下の文章を読んで、(1)(2)の問いに答えなさい。

①ラベリング理論の発想を社会問題の領域に応用すると、「社会問題が実在するから、それへの対処を求める言説や活動が生まれる」のではなく、「何らかの状態を社会問題として定義し、それへの対処を求めるからこそ、その状態が社会問題として構築される」と考えることができる。こうした発想にもとづく研究プログラムを、構築主義アプローチと呼ぶ。

そして構築主義は、ラベリング理論の前提をさらに過激にこえていった。先の例に戻るとラベリング理論は、「交通違反の数は一定だが、取締りの厳しさに応じて、違反（とされる）行為の数が増減する」と考えていた。しかし「交通違反の数は一定」という「状態」（＝暗数）は、誰が、どのようにして判定したのか。これもまた客観的実在というよりは、人びとがそれを事実として主張し、認定する過程で構築されたのではないか。

このような発想にもとづきながら、社会問題の構築主義を定式化したのがマルコム・スペクターとジョン・キツセである。彼らは「社会問題とは……のような状態である」という考え方を捨てて、社会問題を、それが存在すると主張し、それが問題であると定義する人びとによる活動として定義することを提案した。社会問題は、はじめから客観的に存在するのではなく、「社会問題がある」と定義し、クレイムを申し立てる社会成員の活動（クレイム申し立て活動）によって構築されると考えるのである。下記の引用は、構築主義アプローチの定義、特徴、プログラムをもっとも簡潔に表現したものである。

「社会問題は、なんらかの想定された状態について苦情を述べ、クレイムを申し立てる個人やグループの活動であると定義される。ある状態を根絶し、改善し、あるいはそれ以外の形で改変する必要があると主張する活動の組織化が、社会問題の発生を条件づける。社会問題の理論の中心課題は、クレイム申し立て活動とそれに反応する活動の発生や性質、持続について説明することである」(Spector & Kitsuse 1977=1990, p.119、傍点引用者)。

出典：赤川学（2012）『社会問題の社会学』弘文堂。（pp. 17-18 より一部改変）

- (1) 下線部①について、社会学におけるラベリング理論の特徴を簡潔に説明しなさい。
- (2) 任意の現象をとりあげて、課題文の構築主義アプローチに即して社会的に論じなさい。

問2. 以下の英文を読んで、(1)(2)の問いに答えなさい。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承ください。

出典 :: Volti, Rudi, (2008) *An Introduction to the Sociology of Work and Occupations*, Pine Forge Press, p. 219. (一部改変)

uneven	一様でない
embark upon	開始する 着手する
temper	調整する 加減する

- (1) 下線部①professional idealism とは何か。本文に即して具体的に説明しなさい。
- (2) ある種の職業に就くための準備としての occupational socialization はどのようなものとして行われるか。任意の具体的な職業をあげて、社会学的概念を用いて説明しなさい。

令和6年度 お茶の水女子大学 文教育学部 第3年次編入学試験問題
人間社会科学科(子ども学プログラム)

問題1、問題2の解答は、それぞれ別の答案用紙を使用し、それぞれに問題番号を記入すること。

問題1 次の文章(問題1資料)を読み、下の問いに答えなさい。

- (1) 図2を見て、「オープン」スペースについてその変化を説明しなさい。(200字程度)
- (2) 傍線部分について、どういうことなのか、自分の考えを論じなさい。(400字程度)
- (3) 「子どもはあそびの天才」といえるのかどうか、自分の考えを論じなさい。(400字程度)

出典：川田学(2019)保育的発達論のはじまり ひとなる書房(一部改変)

自宅からの距離(m)	1955年頃			1975年頃			2003年頃		
	250~500	1000~	計	250~500	1000~	計	250~500	1000~	計
	0~250	500~1000		0~250	500~1000		0~250	500~1000	
自然	●	●	162,830㎡	●	●	2,000㎡	●	●	162㎡
オープン	●	●	37,460㎡	●	●	8,230㎡	●	●	1,642㎡
道	●	●	1,390㎡	●	●	390㎡	●	●	133㎡
アーキー	●	●	10,880㎡	●	●	20㎡	●	●	0㎡
アジト	●	●	0.9㎡	●	●	0.1㎡	●	●	0.3㎡

図2 子どものあそび空間量の変化

○あそび場を奪われた「天才」たち

子どものあそび環境の問題を、建築家の眼をとおしていちやく世に問うたのが仙田満さんです。仙田さんは、一九九二年に出版した『子どもとあそび』で、世のおとなたちに次のように問いかけました。

「子どもはあそびの天才だから、どこでもいつでもあそびを発見し、発明することができるとよく言われる。しかし、それにはやはり豊かな環境——余裕のある気持ちと空間——があつて、という前提が必要ではなからうか。／現代日本の都市で、子どもはあそびの天才だからどこでもあそべる、ということが、子どもたちのあそび場を確保しなくてもいいという言い訳に使われなかつただろうか。空き地も山も川も、どんとんと都市化し、かつての子どものあそび場を建築物で埋めつくしてしまわなかつただろうか。いま子どものあそびの天才の能力が発揮される町はいくつあるだろうか」

仙田さんは、その後の調査により、高度経済成長期以降の子どものあそび環境の変化について、空間量(面積)の観点から調査を行い、図2のように示しています(横浜市での調査)。図をみると、一目で空間量の

激減を体感します。高度経済成長の入り口である一九五五年からオイルショックをへた一九七五年までのわずか20年のあいだに、あそび環境は無残なほど痩せました。なかでも、雑木林のような「自然」スペースは、八〇分の一にまで減りました。なお、こうした傾向は横浜のような大都市だけでなく、山形などの物理的には自然が残っている地域にも共通する変化であることが、仙田さんたちの調査で明らかになっています。つまり、そうした場所があつても、子どもたちがあそび場として認識できるスペースではなくなつてしまったということです。

○そこで何ができるのか

「アーキー」や「アジト」というのは、子どもが秘密基地をつくつたり、ガラクタであそんだりする空間ですが、二〇〇三年にはほぼゼロになつてしまいました。「道」も、かつては子どもの社交場でしたが、その空間量はもちろん、安全の面でおびやかされてきました。「オープン」スペースは、原っぱや空き地が多かつたと思いますが、現在はほぼ公園です。

問題2 次の英文を読んで答えなさい。

- (1) NLT の調査結果についてまとめなさい。(200 字程度)
- (2) 下線部を日本語に訳しなさい。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

出典 : Creamer, Ella, "More than half of UK children do not read in their spare time, survey reveals," *The Guardian*, Mon 4 Sep 2023, (2023 年 9 月 4 日取得, <https://www.theguardian.com/books/2023/sep/04/half-of-uk-children-do-not-read-in-spare-time>)